

## 事例3 子どもを生き育てることについて主体的に考え、子どもと関わろうとする態度を育む指導の工夫

### 1 ねらい

少子化や核家族化が進む中、生活の中で幼い子どもと接したり、乳幼児を育てている親の姿を見たりする環境にない生徒が多い。そのため、様々な学習場面において、子どものイメージが湧きにくいことや、親の役割を自分たちの問題として捉えにくいことが課題となっている。

そこで本事例では、「家庭総合」における保育分野での調査研究を行った。子どものイメージを想起させるような学習教材を取り入れ、その活用法を工夫した。また、ケーススタディやペアワーク、グループワークなどの活動を取り入れ、子どもや子育てについて主体的に考えるような授業を展開した。その中で、子どもを生き育てる上で起こり得る身近な問題について話し合い、理由や意見をまとめたり、問題の解決方法を探求したりすることによって、学習内容の理解を深め、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと関わろうとする態度を育むことをねらいとした。

### 2 授業実践

単元名：子どもを育てる

- (1) 単元の指導内容 使用教科書（「家庭総合 ともに生きる 明日をつくる」教育図書）
- ・乳幼児期の特徴を捉えさせ、人間の発達段階にとって重要な時期であることを理解させる。
  - ・親の役割と保育の重要性や地域及び社会の果たす役割について、様々な教材を使った活動などを通して理解させる。
  - ・子どもを生き育てることや子どもと関わることを自らの課題として捉えさせて考えさせる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達と保育について関心をもって、実践的・体験的な活動に取り組もうとしている。</li> <li>・保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の役割や子どもを生き育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> <li>・近年の少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習において、子どもと触れ合ったり、適切にかかわったり、子どもの発達の様子を観察したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であることを理解している。</li> <li>・子どもの発達と遊びや環境との関わりについて理解している。</li> <li>・乳幼児期における親や家族の関わり方、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。</li> </ul>

(3) 単元の指導計画（20時間）

毎時間の取組として、実習やケーススタディ、資料の読み取り、講話などのうちからいずれかを取り入れ、その活動を通して学んだことをまとめさせたり、意見や感想を書かせたりする。特に、5～7時間目、9時間目、13時間目、14・15時間目は、ペアやグループで活動を行い、お互

いの考えを伝え合い、課題を探究していく活動を充実する。

1～16 時間目は第 2 学年、17～20 時間目の幼稚園実習関係の授業は第 3 学年を対象に行う。

時間	学習内容	評価				
		関	思	技	知	評価規準
1	○〈発表〉「小さかったころを思い出してみよう」	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の記憶をまとめ、発表することができる。</li> <li>・他の生徒の発表をよく聞き、関心をもって乳幼児について考えようとしている。</li> </ul>
2	○乳幼児が生まれながらにもつ能力と保育の必要性を知る。 〈実習〉子どもの顔、大人の顔を描いてみよう 〈DVD〉生命の誕生 2～生命を育む～				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児と大人の顔の違いを図示し、その違いから保育の必要性を考え理解している。</li> <li>・乳児の特徴と能力について理解している。</li> </ul>
3	○新生児の特徴を知る。 〈実習〉新生児人形を観察しよう ○子どもの成長・発達の様子について理解する。			○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた乳幼児の扱いが適切にできる。</li> <li>・乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であることを理解している。</li> </ul>
4	○〈読み物〉資料を読み、子どもの社会性の発達からみる親の役割とその重要性について考える。 ○幼児期のものとの捉え方を理解する。 〈実習〉三歳児の描く人物像は？		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期における親や家族の関わり方に関心をもち、家庭生活が果たす役割の重要性について考えをまとめている。</li> <li>・幼児期のものとの捉え方を理解している。</li> </ul>
5	○親の役割について考える。 〈グループワーク (KJ法)〉 「親の役割について考えよう！」		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の役割について考えるとともに、班のメンバーの意見をまとめたり、発表したりしている。</li> </ul>
6	○子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣について理解する。 ○子どもの食生活について考える。 〈ケーススタディ (ペアワーク)〉 子どもの偏食、夜更かしへの対応		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣について理解している。</li> <li>・子どもの生活上の問題に対して、親としてどのように関わるかを考え、意見をまとめたり、発表したりしている。</li> </ul>
7	〈グループワーク〉 「幼児のおやつに何を与える？」		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の子どもの間食の意義を理解している。</li> <li>・幼児のおやつについて、健康に配慮した献立として考えをまとめている。</li> </ul>
8	〈実習〉離乳食試食 〈実習〉おやつ作り				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた離乳食の状態と味を理解している。</li> <li>・幼児期に適した間食を作ることができる。</li> </ul>
9	○子どもの衣生活について考える。 〈グループワーク〉 「子どもにどんな服を着せる？」		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの衣服の条件について考えて衣服を選択し、その選択理由をまとめたり、発表したりしている。</li> <li>・子どもの身体の特徴や心身の発達、衣服の管理のしやすさ、安全性などを考慮した衣服の選択について理解している。</li> </ul>
10	○子どもの遊びと児童文化について理解する。 〈実習〉手遊び歌	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について理解している。</li> <li>・積極的に遊びを体験し、児童文化財について理解しようとしている。</li> </ul>
11	〈実習〉お月見		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中行事・伝承遊びの価値に気付き、考えたことを発表している。</li> </ul>

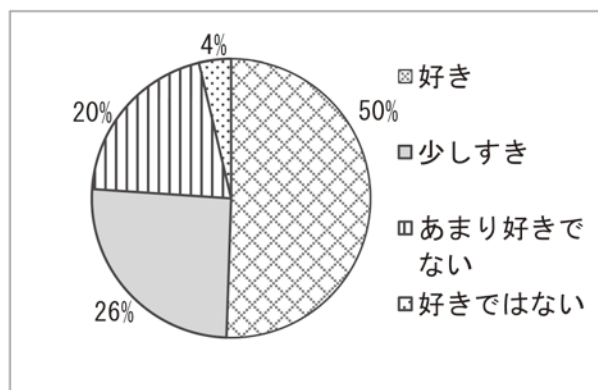
12	○乳幼児の健康管理について理解する。 〈ケーススタディ〉 頭痛で保育園を休みたい子どもへの対応		○		○	・乳幼児の健康管理の重要性と親の役割について理解している。 ・子どもの体調の変化に気付いた時、親としてどう関わるかを考え、まとめたり、発表したりしている。
13	○乳幼児の安全について考える。 〈ケーススタディ (グループワーク)〉 危険な行動、事故の例を挙げ、班ごとにケースとその対応策を考える。		○		○	・乳幼児の危険な行動や事故を予測し、その予防策について考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 ・安全教育の重要性と親の役割について理解している。
14	○子育てに関わる問題について考える。 〈グループワーク〉 「子育てシミュレーション ～ある家族の1日～」	○				・子育てを自分たちの問題として捉え、与えられた条件の中で最適な1日のスケジュールを考えようとしている。 ・子育てを支援する社会資源を踏まえながら、シミュレーションで浮上した問題点の解決に向けて考えを深めている。
15			○			
16	○子どもを取り巻く環境の変化や子育てにかかわる問題について考える。 〈講話〉イクメン体験談		○			・少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・子育てを自分たちの問題として捉えようとしている。
17	○幼稚園交流オリエンテーション	○				・子どもに関心をもち、目的をもって幼稚園交流に臨もうとしている。
18	○幼稚園交流(2時間)				○	・適切な態度で子どもとかかわったり、子どもの発達の様子を観察したりすることができる。
19						
20	○幼稚園交流報告会				○	・各班の交流のまとめの発表を聞き、異なる年齢の園児の様子を理解する。

#### (4) 生徒の子どもに対する意識の調査

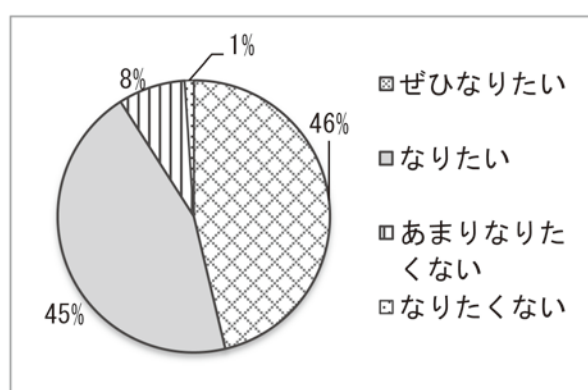
##### ア アンケートによる調査

授業実施前にアンケートを行った。対象は第2学年の生徒188名である。

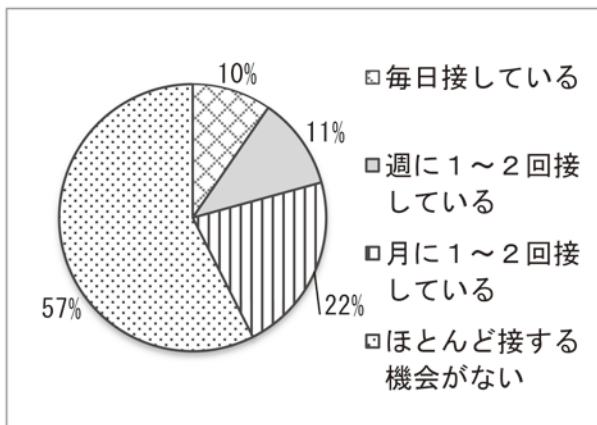
76%の生徒が「子どもが好き・少し好き」と答え【図1】、91%の生徒が「親にぜひなりたいたい・なりたいたい」と答えていた【図2】。しかし、57%もの生徒が身近な生活の中で子どもと「ほとんど接する機会がない」と答えていた【図3】。また、接する機会があると答えた者のうちの47%が接する子どもの年齢として「小学校低学年の子ども」を挙げていた【図4】。



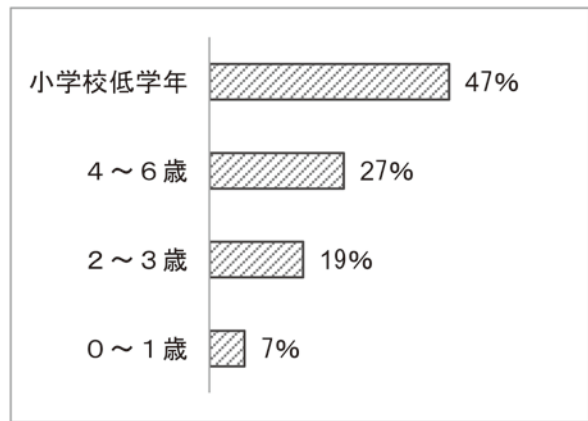
【図1】子どもが好きですか



【図2】将来親になりたいですか



【図3】子どもと接する機会



【図4】接する子どもの年齢

### イ イメージマップによる調査

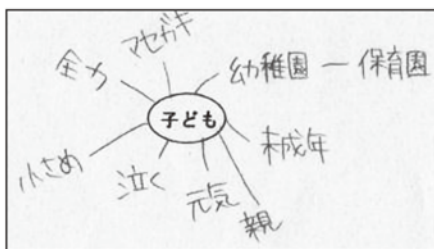
生徒の子どもに対する意識を客観的に把握するために、イメージマップによる意識調査を行った。10分間で「子ども」という言葉からイメージする単語を思いっただけ挙げさせ、その関連を線で結んで表現させた。有効回答者数は111名である。

イメージされた単語の数は以下のとおりである【表1】。またイメージされた内容の代表的なものを【生徒A】【生徒B】を例として示す。生徒の子どもに対するイメージが非常に貧困であることが確認できた。

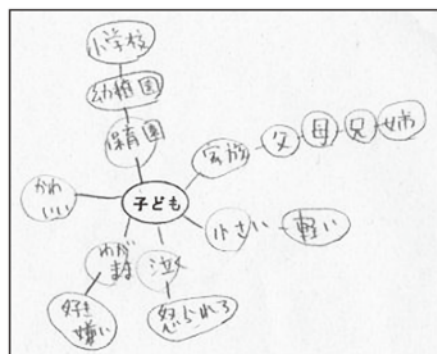
【表1】イメージされた単語数

	平均値	最小値	最大値
単語数	11.1	1	27

【生徒A】単語数9個



【生徒B】単語数15個



### (5) 授業の概要

単元を通して、自分が子どもを生み育てることについて主体的に考えることにより、これからの生活の中で子どもと関わろうとする態度を育むことをねらいとした。そのために、自らの考えをもつこと、他に考えを伝えること、また他の意見を聞くことを繰り返す授業を行った。ここでは、生徒の活動を特に重視した5~7時間目、9時間目、13時間目、14・15時間目の概要について述べる。

グループワークでは1クラスを8班に分けた(1班4~5人)。グループワークが5回あるため、毎回代表者を替え、全員がグループでの司会、クラス全体での発表を行うことを予告して授業に臨んだ。

ア 5時間目の授業 【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

「親の役割について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	○〈グループワーク〉 「親の役割について考えよう！」 ・ワークの手順について説明を聞く。 ・ブレインライティングを行う。 ・K J法によりまとめる。 ・発表する。 ・グループワークの振り返りをする。	○K J法の作業手順を説明し、例を示す。 ○付箋紙を用いたブレインライティング、K J法による意見の集約と発表が円滑に行えるよう生徒の状態を観察しながら助言する。 ○K J法で出された生徒たちの意見を集約する形で、親の役割のまとめができるようにする。
まとめ	○本時の学習内容のまとめをする。 ○次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

5時間目では、ブレインライティングにより生徒一人一人に「親の役割とは何か」について意見を出させ、その後、K J法により班ごとに意見をまとめさせた。事前に一人6枚ずつ付箋紙を配り、意見を出す意識を高めたことにより、普段自分の意見を発言することを嫌がる生徒も積極的に考えて記述する姿を見せた。また、生徒全員に発言の機会を与えることにもつながり、消極的な生徒も意見を述べることができた。

生徒にとってK J法での活動は初めての経験であり、ブレインライティングで出された意見をグループ化することに試行錯誤する姿が見られた。活動が滞る班には適宜助言をした。試行錯誤するうちに、生徒の活動が活発に行われるようになり、発表のための作成物に関しても短い時間の中、それぞれの班で工夫をして制作することができた。



(グループでの話し合いの様子)



(K J法でまとめたもの)

**授業後の生徒の感想**

- ・活動を通して親の役割はたくさんあるのだと改めて感じた。たくさんあって驚いた。
- ・グループによってまとめ方が異なっても、カードを見ると共通する部分がたくさんあった。
- ・親はこれだけの役割を果たすなんてすごい。たいへん。親に感謝。
- ・グループで意見を出し合うなかで考えが深まった。
- ・充実感のある授業だった。楽しかった。

## イ 6時間目の授業 【適切な解決方法を探求させる活動】

「子どもの食生活について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	○基本的生活習慣・社会的生活習慣について知る。 ○子どもの食生活について考える。 〈ケーススタディ（ペアワーク）〉 親にどんなアドバイスをしますか？ ケース1：野菜嫌いスナック菓子好きの娘 ケース2：夜更かし、寝坊、朝食欠食の息子 ・発表する。 ・まとめる。	○生活習慣とはどういうものか考えさせる。 ○子どもの食生活上の問題に対して、親としてどう関わるかを考えさせる。その際、それぞれが考えた親の対応を、子どもがどう感じるかも考えさせる。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動の「子どもの生活の現状」を振り返らせる。
まとめ	・本時の学習内容のまとめをする。 ・次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

6時間目では、生活習慣や食生活の学習を行った後、授業で得た知識を実生活で活用する実践的な態度を育むため、子どもの食生活上の問題に対して親としてどう関わるかケーススタディを通して考えさせた。

### 【設定したケース】

ケース1 野菜嫌いでスナック菓子好き（偏食・間食過多）

ケース2 夜更かし、寝坊、朝食欠食

### 【生徒の活動】

- ① ケースを読み自分の考えをまとめた後、ペアとなり、まず一人が意見を出す。
- ② 話し手が出した台詞や対処法に対して、聞き手は自分が子どもだったらどう感じるかという視点で意見を述べる。
- ③ 役割を変えて繰り返す。
- ④ ペアの代表が話し合いの内容を簡潔に発表し、クラス全体で意見を共有する。

生徒の中には自分自身が野菜嫌いであったり、朝食を欠食していたりといった問題を抱えている者もいる。ケースで扱った子どもの問題は、将来親になった時に自分の子どもにも起こる可能性があることを、実感を伴って理解できたようであった。生徒一人一人が真剣に意見を出し合い、積極的に話し合う姿が見られた。生徒の反響も大きく、授業後には他のクラスの生徒から「早くうちのクラスでもやりたい」という声も聞かれた。

### ある生徒の意見

ケース	自分の意見	他者の意見
1 うちの娘（5歳）は野菜が嫌い。野菜は絶対食べません。スナック菓子は好きでよく食べるんですけどね。	・野菜を無理にでも食べさせる。 ・親が野菜をおいしそうに食べてみせる。	・よけい食べたくなくなるのでは？ ・野菜の大切さを教える。 ・一緒に料理をする。 ・スナック菓子の1日の量を定める。

<p>2 うちの息子（4歳）は9時に寝ればよいのに 10 時過ぎまでテレビを見て起きています。朝はぎりぎりの時間に起きて朝ご飯もほとんど食べずに登園します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9時になったらお化けが出ると脅す。</li> <li>・ 9時になったら電気を消す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ト라우マになるのでは？</li> <li>・ 怖くてよけい眠れないかも？</li> <li>・ 昼間いっぱい遊ばせる</li> <li>・ 寝る前に絵本を読んであげる。</li> <li>・ テレビを録画する。</li> <li>・ 朝に楽しみを作る。</li> </ul>
--	--	--

**授業後の生徒の感想**

- ・ 自分ではあまりアイデアが出なかったが、他の人の意見を聞くと「なるほど！」と思えた。
- ・ 自分が小さかった頃のことを思い出した。親の苦労が少し分かった。
- ・ 子どもとの生活はいろいろ大変だと思っていたけど、子どもと一緒に野菜を食べたり早寝早起きしたりと、逆に規則正しい生活ができるのではないかと考えるようになった。
- ・ 子どもが言うことを聞かなかつたら、つい脅したり叱ったりしてしまうと思うけど、違う方法を聞くことができよかった。自分が親になったら今回学んだことをいろいろ試したい。

**ウ 7時間目の授業 【判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動】**

**【ワークシートの工夫】**

「幼児のおやつに何を与える？」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉</p> <p>「幼児のおやつに何を与える？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークの説明を聞く。</li> <li>・ 班ごとに3歳児の2回分のおやつのおやつを献立を作る。</li> <li>・ 発表する。</li> <li>・ 班別に相互評価をする。</li> <li>・ それぞれの班のおやつのカロリー、砂糖、塩分、脂肪の量を計算する。</li> <li>・ 改善点があれば改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用する食品例 42 種類を「食品シート」において表と写真で提示する。 【資料1、2】</li> <li>○簡易ホワイトボードを用い意見を集約させる。</li> <li>○各班で発表する献立が重ならないように調整する。</li> <li>○黒板に献立と選んだ理由を書かせ発表させる。</li> <li>○それぞれの班の献立について意見を述べる。</li> <li>○幼児期のおやつは食事であり、適した食品・あまり適さない食品があることを知らせる。</li> <li>○栄養だけでなく嗜好も考慮させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習内容のまとめをする。</li> <li>○次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。</li> </ul>

7時間目では、グループワークで3歳児の2回分の「おやつのおやつ」を考えさせた。生徒に自由に献立を考えさせると、ホットケーキやクッキー、マフィンなど普段生徒が作っているものに偏ることが多いため、「ある家庭の台所」を想定し、使用できる食品を42種類に限定した。調味料は一般家庭にあるものを自由に使用できるようにした。使用できる食品は品名だけ示してもイメージが湧きにくいと考え、「食品シート」として品名と概量を記載したプリントをラミネート加工したもの【資料1】と、それらの写真を同じく加工したもの【資料2】の2種類を各班に配布した。

グループワークでは簡易ホワイトボードを用いて意見を集約させたことにより、班での話合い

が円滑に行われた。発表は各班2回分の献立であるが、2回分以上の献立を考えさせ、多様な意見を集めるために、各班で発表する献立が重ならないように調整した。

発表時に黒板に献立名を書かせ、その献立を選んだ理由を発表させた。発表後、各班の作った献立について相互評価し意見を出させた。他の班の発表で納得できない点があると質問をしたり、不適切だと思う点を指摘したりする意見も出た。

### 【資料1】食品シート

食品名	量	食品名	量
ポテトチップ（のり塩）	小袋1袋 30g	小麦粉	
えびせん	小袋1袋 2.6g	食パン（8枚切り）	1枚
プリン		ご飯	子ども食器1杯
白玉団子	1パック6個	冷凍おにぎり	1個 50g
チョコレート菓子	1個 1.3g	カップヌードル	1個
せんべい（ばかうけ）	小袋1袋	フライドポテト	80g
練のたねビーナッツ	小袋1袋	焼きそば（冷凍品）	250g
クッキー（チョコクリーム入り）	1枚 1.2g	ウインナー	
キャラメル	1粒 5g	ハム	
茎わかめ	1袋 5g	卵	
ずめめ	20g	プレーンヨーグルト	
りんご		苺ヨーグルト	
みかん		チーズ	
バナナ		とろけるチーズ	
きゅうり		バター	
トマト		牛乳	
レタス		麦茶	
キャベツ		オレンジジュース	
にんじん		コーラ	
きつまいも		生クリーム	
じゃがいも		ミックスフルーツ缶詰	1個

### 【資料2】食品の写真



（簡易ホワイトボードを用いての意見集約の様子）

### 献立例

おやつ献立	選んだ理由
フルーツヨーグルト（果物缶詰、ヨーグルト）	フルーツからビタミンがとれる。ヨーグルトからカルシウムがとれる。食べやすい。
フルーツ生クリームサンド（果物缶詰、食パン、ホイップクリーム）、オレンジジュース	フルーツからビタミンがとれる。ホイップクリームの甘さを子どもが好む。おなかいっぱいになる。
サンドウィッチ（食パン、レタス、ハム、チーズ）、オレンジジュース	野菜、フルーツ、乳製品をバランス良くとれる。
ピザ（ハム、とろけるチーズ、トマト、食パン）、麦茶	嫌いな物でも食べられる。トッピングを子どもにさせると楽しい。麦茶はゼロカロリー。
お好み焼き（小麦粉、チーズ、キャベツ、ウインナー、卵）、麦茶	野菜も乳製品もとれる。栄養バランスが良い。麦茶はミネラルが含まれ体に良い。
じゃがバター 麦茶	材料費が安価で簡単にできる。炭水化物を摂取できる。じゃがいもをのどに詰まらせないため（麦茶）。
茎わかめ 麦茶	そのまま食べられるし栄養がある。ジュースより麦茶のほうが体に良い。
えびせん オレンジジュース	えびせんからカルシウムがとれる。大人も子どもも好き。手軽。オレンジジュースからビタミンがとれる。体によい。



話し合いと発表を通して、健全な食生活を送る上でのおやつ選びについて、分かったことや気付いたことをワークシートにまとめさせた。ワークシートに〈おすすめ〉〈注意〉〈その他〉とキーワードを入れたため、ほとんどの生徒が主体的にまとめることができた。

まとめたものを発表させながら、幼児期のおやつは食事であることや、適した食品と適さない食品があることを知らせ、それぞれの班の献立のエネルギー量や糖分、塩分、脂質の摂取量を簡易的に計算させた。このことにより、自他共に完璧な献立であると考えていた「フルーツ生クリームサンド+オレンジジュース」はエネルギー量が多いことや、子どもも大人も好きでカルシウムとビタミンの摂取に期待ができる「えびせん+オレンジジュース」は塩分が多いことに気付くことができた。食品選びの難しさを改めて感じたという意見が出た。

### 生徒のまとめ

- 〈おすすめ〉…乳製品（カルシウム）、果物（ビタミン）、するめ（あごが育つ）を取り入れる。  
嫌いなものも食べられる機会にする。一緒に作ると楽しい。
- 〈注 意〉…甘いものに偏らない。キャラメルなどは虫歯に注意。  
脂質・塩分・加工食品の取りすぎには注意。ピーナッツなどは幼児には与えない。  
餅などは細かくして与える（窒息の危険の回避）。
- 〈その他〉…がんばって毎日手作りするのも疲れる。その時間を子どもと関わる時間に充てる。  
コスト、簡単さも考慮する。嗜好も考慮する。  
食事に影響しない時間とタイミングに気を付ける。

## エ 9時間目の授業 【判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動】

「子どもの衣生活について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉</p> <p>「子どもにどんな服を着せる？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの説明を聞く。</li> <li>・班ごとに与えられた条件 2か月児 6月、12月 3歳児 6月、12月 にあった下着、アウターを選択する。</li> <li>・発表する。</li> <li>・発表まとめプリントに記入する。</li> </ul> <p>○子どもの体の特徴、着脱・洗濯のしやすさ、安全性を考慮して選択する必要があることを知る。</p>	<p>○下着、アウターについて形状・素材の違うもの（実物）を提示する。</p> <p>○衣服の選択の手順とプリントの記入例を示す。</p> <p>○「衣服シート」から選択した衣服の写真をプリントに貼らせる。</p> <p>○子どもの体の特徴、行動の特徴、発達も考えて選択するように促す。</p> <p>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、条件の違いによる衣服の選択の違いに気付かせる。</p> <p>○プレゼンテーションソフトを用いて皮膚疾患の例を示す。</p> <p>○ニンヒドリンを用いて下着や靴下が汚れやすいことを確認する。</p> <p>○幼児の衣服が原因で起こった事故について紹介する。</p>

まとめ	○本時の学習内容のまとめをする ○次時の学習内容を知る	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。
-----	--------------------------------	-----------------------------

9時間目では、グループワークで子どもの衣服について考えさせた。2か月児（首がすわらない、1日の大半を寝て過ごす）又は3歳児（活発に遊具などを用いたりお絵かきをしたりして遊ぶ、一人でこぼしながら食事をする）、季節では梅雨時の6月又は寒い時期である12月を設定した。同じ月齢、年齢と同じ季節を条件とした班を二つずつ作り、どのように衣服を着せるかを検討させた。

多くの生徒は幼い子どもと接する機会がほとんどないため、子どもの衣服に対するイメージは湧きにくいのではないかと考えた。イメージしやすくするための教材として、下着、アウターについて形状・素材の違う実物を複数提示した。提示した衣服の中にはそれぞれの月齢、年齢に適さないものも含めた。例えば、2か月児の衣服の中には前開きでない衣服、3歳児の衣服の中にはビーズの飾りのついた洗濯が容易ではない衣服、危険が予測されるようなチェーンやひもの付いた衣服やフード付きの衣服である。さらに、実物を写真に撮って一覧にした「衣服シート」を生徒に配布し、選択した衣服の写真をワークシートに貼らせることにより、どの服を選択したのか分かりやすくした。衣服の選択の際、実物を手に取って見ながら、子どもの身体の特徴、行動の特徴を踏まえて選択するように促した。生徒の中には、衣服を裏返し、取り扱い絵表示や組成表示を見て参考にしている生徒もいた。



(衣服を選んでいる様子)



(ワークシートにまとめている様子)

発表の際には、聞き手側の生徒には「発表まとめプリント」に記入をさせ、条件の違いによる衣服の選択の違いがプリント1枚で比較できるようにした。同条件の班が2班ずつあるため、2班が同じ衣服を選択すると想定していたが、全く同じコーディネートのはなかった。同条件の班を作ったことにより生徒の競争意識を刺激し、授業への意欲・関心をより高められたように感じた。

また、プレゼンテーションソフトを用いて「あせも」や皮膚疾患の例を示したり、ニンヒドリンで染色された下着や靴下を提示したりすることで、子どもの体の特徴や、目に見えない汚れ、下着の着用の効果を視覚的に分かりやすくした。

さらに、衣服が原因で起こった子どもの事故について紹介するとともに、2012年10月12日付の読売新聞の記事「経済産業省が子ども服の安全性に関するJIS規格を策定する検討を始める」を紹介した。

#### オ 13時間目の授業 【適切な解決方法を探求する活動】

「乳幼児の安全について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	

展開	<p>○〈ケーススタディ (グループワーク)〉</p> <p>①子どもの危険な行動、事故の原因をあげる。</p> <p>②①の中からケースを一つ選択し、対応を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で話し合う。</li> <li>・発表及び発表のまとめプリントを記入する。</li> </ul> <p>○子どもの事故についてまとめる。</p>	<p>○簡易ホワイトボードを用い意見を集約させる。</p> <p>○各班で発表するケースが重ならないように調整する。</p> <p>○乳幼児の安全教育の重要性と親の役割について理解させる。</p> <p>○子どもの気持ちも考えさせる。</p> <p>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、ケースの違いによる対応の違いに気付かせる。</p> <p>○危険な行動や事故の予防策だけでなく、起こってしまったときの救急法も知らせる。</p> <p>○年齢による事故の違いを知らせる。</p>
まとめ	<p>○本時の学習内容のまとめをする。</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>○感想、自己評価をワークシートに記入させる。</p> <p>○ワークシートの提出を伝える。</p>

13時間目では、グループワークでケーススタディに取り組んだ。ケーススタディは本時で3回目であるため、ケースも生徒達に考えさせた。まず、子どもの危険な行動や事故の原因を一つの班で10個以上考えさせ、その中から一つをケースとして選択し、対応策を考えさせた。その際、各班のケースが重ならないように調整した。ケーススタディに慣れてきたせいか、教師から促されなくても「子どもの気持ち」に寄り添った対応策を考える班が多くなった。また、簡易ホワイトボードを用いて意見を集約させることにより、班での話し合いが円滑に行われた。

発表の際には、聞き手側の生徒には「発表まとめプリント」に記入をさせ、ケースの違いによる対応の比較とまとめがプリント1枚でできるようにした。

#### あるクラスで出されたケースとその対応策

班	ケース	対処法	その他の意見（他の班の意見）
1	もちで窒息する	与えない。幼いうちは与えない。 嘔む見本を見せる。掃除機準備。→ ゆっくり食べさせる。	小さくして与える。 掃除機は危険ではないか？
2	暖房器具に触れて火傷する	器具の周りに柵をつける。 親が気を付ける。	火傷しない暖房にする。 つけたままにしない。
3	鼻に物を詰め込む	小さい物を手の届くところに置かない。 親が気を付ける。	説明をしてしつける。
4	コンセントを触って感電する	コンセントカバーをつける。 コンセントを隠す。	説明をしてしつける。
5	「危ない」と親が言うことをやりたがる	説明をしてしつける。 時には叱る。目を離さない。	危なくないように親がやり方を教える。一緒にやる。
6	車道に飛び出す	手をつなぐ。車道側を歩かせない。 道のそばで遊ばせない。	説明をしてしつける。
7	高い所から落ちる	高い所に登らせない。 親が目を離さない。	踏み台となるものを置かない。 階段・ベランダ・浴槽などに柵や鍵をつける。

8	ドアに手の指をはさむ	ドアに安全器具をつける。 ドアを外しておく。	ドアの閉め方を教える。
---	------------	---------------------------	-------------

話し合いや発表を通して、子どもの安全に配慮した生活のポイントについて、分かったことをワークシートにまとめさせた。あらかじめワークシートに〈親（大人）が子どもに対して行えること〉〈親（大人）が配慮できること〉というキーワードを与えていたため、ほとんどの生徒が主体的にまとめることができた。

#### 生徒のまとめ

〈親（大人）が子どもに対して行えること〉… 危険であることを教える。見守る。一緒にやる。できたら褒める。しつける。

〈親（大人）が配慮できること〉… 事故の起こらない環境を大人がつくる。危険な物は手の届く所に置かない。鍵をつける。柵をつける。子どもが使う物を工夫する（子ども用のはさみ等）。

また、「もちで窒息」の対処法に「掃除機準備」と答えた班があったため、事故を予防することの大切さとともに、事故の際の適切な対処法（救急法、応急処置）を知っておくことの大切さも教えるよいきっかけとなった。窒息の対処法、手指の止血法、火傷の応急処置も含めて教えることができた。

#### 授業後の生徒の感想

- ・身近なところに子どもにとって危険がたくさんあることが分かった。
- ・子どもは大人の常識では考えられないことをするため、親はいろいろな角度から危険性を考えていかなければならないことが分かった。
- ・もし実際に事故が起きたら、落ち着いて行動できるか不安に感じた。対処法を学びたいと思った。
- ・しつけは大切。時には厳しく、できたら褒める！

#### カ 14・15 時間目の授業 【適切な解決方法を探求させる活動】【ワークシートの工夫】

「子育てに関わる問題について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉 子育てシミュレーション ～ある家族の1日～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの説明を聞く。</li> <li>・班ごとに与えられた条件にしたがって、家族それぞれの1日のスケジュールを考える。</li> <li>・発表のまとめのプリントに記入する。</li> <li>・ワークを行ったり、他の班の発表を聞いたりして気付いたこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各条件における子どもの年齢と生活リズム、親の勤労形態の違いを提示する。 【資料3】</li> <li>○子育て支援サービスを利用する際のヒントとして、サービスの利用対象や条件などをまとめた「子育て支援カード」を提示する。</li> <li>○育児に関わる時間だけでなく、仕事や家事、自分の身の回りのことをする時間も考えさせる。 【資料4】</li> <li>○発表の際、スケジュール作成の理由を説明させる。</li> <li>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、条件の違いによるスケジュールや問題点の違いに気付かせる。 【資料5】</li> </ul>

	と、育児の問題点などをまとめる。	○子育て支援サービスでは補えきれないもの、すべて任せてはいけないものがあることに気付かせる。
まとめ	○本時の学習内容のまとめをする。 ○次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

14・15 時間目では、グループに与えられた「家族の1日のスケジュール」を家族員ごとに考えさせた。その際、4パターンの家族構成（構成員の年齢、生活リズム、勤務形態）を設定し、そのうちの一つを班で検討させた。

14 時間目に課題と条件を示したワークシート【資料3】とスケジュール作成プリント【資料4】、子育て支援サービスを利用する際のヒントとして、サービスの利用対象や条件などをまとめた「子育て支援カード」を提示し、ワークの手順を説明した後、スケジュールを作成させた。

### 【資料3】

#### 1 4 子育てに関する問題について考えよう。

##### グループワーク

##### <テーマ>

「子育てシミュレーション～ある家族の1日～」

##### <課題>

○自分たちがパパ、ママになったつもりで家族それぞれの1日のスケジュールを考えよう！

\*与えられた条件でスケジュールを考えること。

\*育児に困ったときは「子育て支援カード」を参照。

\*「子育て支援カード」に書いてある社会的なサービスを利用する際はマーカーで印をつけよう！

##### <条件>



1 ・ 2 班	子ども：6カ月 ママ：専業主婦 パパ：会社員（総合職） 出勤：7：30 帰宅：21：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	<b>6カ月児の基本スケジュール</b> 7：00 起きる・おむつ替え 8：00 授乳・おむつ替え（計30分） 10：00 授乳・おむつ替え（計30分） 10：30～12：00 ねんね・起きたらおむつ替え 12：30～13：30 離乳食・授乳・おむつ替え・抱っこ 15：00～16：00 ねんね・起きたらおむつ替え 授乳・おむつ替え（計30分） お風呂（30分） 20：00～22：00 ねんね・起きたらおむつ替え 22：30 授乳・おむつ替え（計30分） 23：00 ねんね *30分のお散歩タイムを入れる	
	3 ・ 4 班	子ども：6カ月 ママ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（総合職） 出勤：8：00 帰宅：21：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	
5 ・ 6 班	子ども：3歳 ママ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜	<b>3歳児の基本スケジュール</b> ・7：00 までには起きる ・食事は3回と午後におやつを食べる（手洗い・排泄・食事時間で計1時間） ・うんちタイムは朝・夜の1日2回食後 ・午後にお昼寝（2時間） ・夜にお風呂（30分） ・20：30 には寝かせる	
7 ・ 8 班	子ども：3歳 ママ：会社員（総合職） 出勤：8：00 帰宅：19：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（営業職） 出勤：7：30 帰宅：22：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	<b>その他の条件</b> ・食事作り ・食事片付け ・洗濯物干し ・洗濯物たたみ ・お風呂（1人あたり） ・掃除・整理整頓 ・通勤時間（子どもの送迎含む）	それぞれ 30分

15時間目は班ごとに発表をさせた。ホワイトボードに、家族員一人一人の1日のスケジュールを行動カード(「授乳」「おむつ替え」「散歩」など)を用いて表示させ、不足部分やポイントなどは直接記入させて説明させた。発表を聞く側の生徒には「発表まとめプリント」に「良い点」と「問題点」を記入させ、設定された家族の違いによるまとめと問題点などの比較がプリント1枚でできるようにした【資料5】。

【資料4】スケジュール作成プリント(概要)

	子ども	ママ	パパ	
5:00				5:00
6:00				6:00
(略)				(略)
23:00				23:00
24:00				24:00
使用した社会的なサービス				
困ったこと				



(発表の様子)

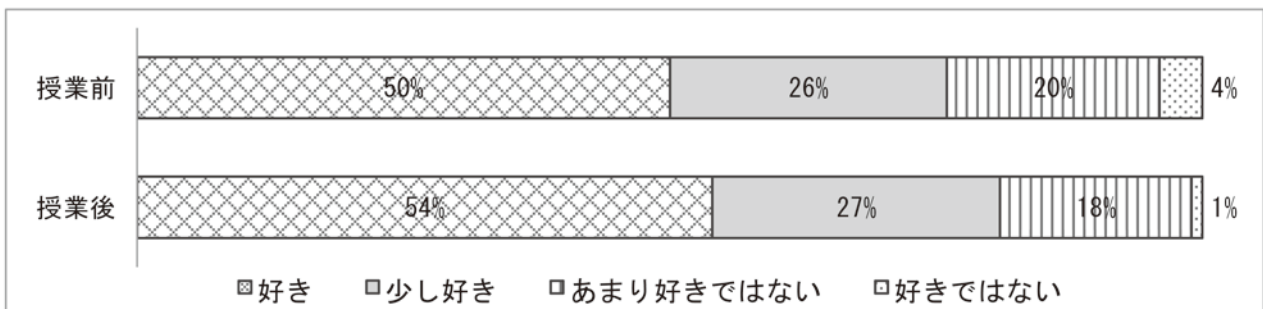
【資料5】「発表まとめプリント」に生徒が記入した内容

1. 2班	子ども:6か月 ママ:専業主婦 パパ:会社員(総合職) 出勤:7:30 帰宅:21:00 休日:土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・赤ちゃんの面倒がゆつくりみられる。散歩などができる。 ・家事も丁寧にできそう。 <b>問題点</b> ・ママに育児の負担がかかりすぎる。ママの息抜きが必要。 ・パパと子どもと一緒に過ごす時間が少ない。
3. 4班	子ども:6か月 ママ:会社員(事務職) 出勤:8:00 帰宅:17:30 休日:土曜、日曜 パパ:会社員(総合職) 出勤:8:00 帰宅:21:00 休日:土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・職場では育児から解放される。 ・収入の安定。 <b>問題点</b> ・育児休業をとらないと夜遅くまで子どもの世話もあり、ママの体力が続かないかもしれない。 ・パパが子どもと一緒に時間が少ない。ママの負担が多すぎる。 ・粉ミルクになる確率が高い。 ・パパが育児休業をとってもよかったかも。
5. 6班	子ども:3歳 ママ:会社員(事務職) 出勤:8:00 帰宅:17:30 休日:土曜、日曜 パパ:会社員(事務職) 出勤:8:00 帰宅:17:30 休日:土曜、日曜	<b>良い点</b> ・夫婦で家の仕事を分担できる。子どもと遊ぶ時間がある。 ・パパが子どもの世話をできる。夫婦の時間がある。 ・収入の安定。 <b>問題点</b> ・朝と夜が忙しい。 ・仕事で疲れた時、家事と育児がおそろそかになってしまうかも。
7. 8班	子ども:3歳 ママ:会社員(総合職) 出勤:8:00 帰宅:19:30 休日:土曜、日曜 パパ:会社員(営業職) 出勤:7:30 帰宅:22:00 休日:土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・お金は稼げそう。 ・早朝保育、延長保育、ベビーシッターなどを使い、多くの人に子育てを助けてもらえる。 <b>問題点</b> ・両親とも忙しすぎる。パパは子どもとほとんど会えない。 ・朝と夜1時間しか子どもと会えない。親の役割が果たせないのでは? ・親の夕飯の時間が遅いから体に悪い。

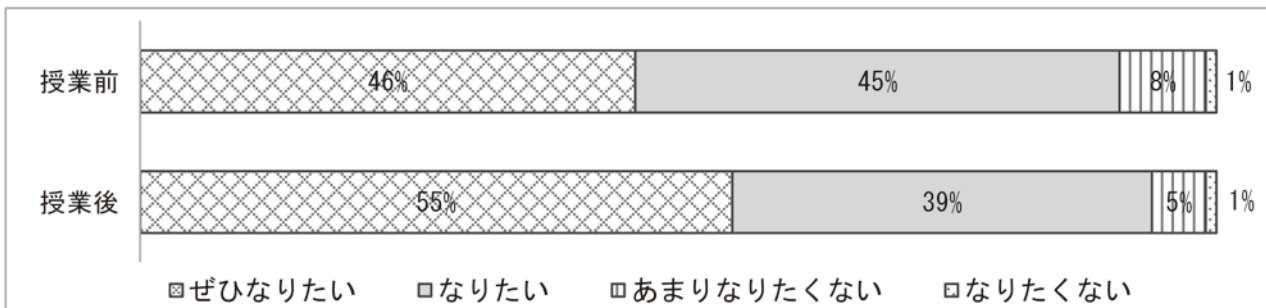
(6) 授業後の意識の変容調査の実施

ア アンケートによる調査

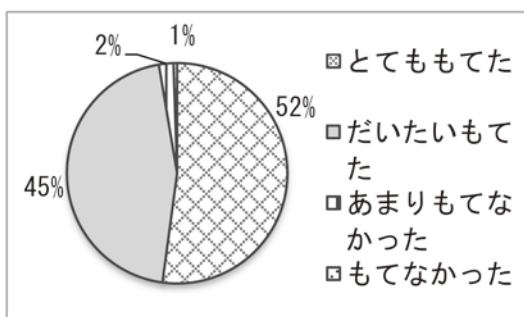
授業実施後のアンケートでは、81%の生徒が「子どもが好き・少し好き」と答えた【図5】。また、94%の生徒が「親にぜひなりたい・なりたい」と答えた【図6】。授業実施前より数%ではあるが子どもや子育てに対してプラスに捉える生徒が増加した。ほとんどの生徒が「乳幼児について関心がとてももてた・だいたいもてた」【図7】、「親として子どもとどのように関わるか考えることがよくできた・だいたいできた」【図8】、「乳幼児についてよく理解できた・だいたいできた」【図10】と答えているが、「親として子どもとどのように関わるか意見を述べることがよくできた・だいたいできた」と答えた生徒は87%であった【図9】。子どもや子育てに対して関心を持ち、考え、理解はできても、自分の意見を述べることはできない生徒がいたことが分かった。



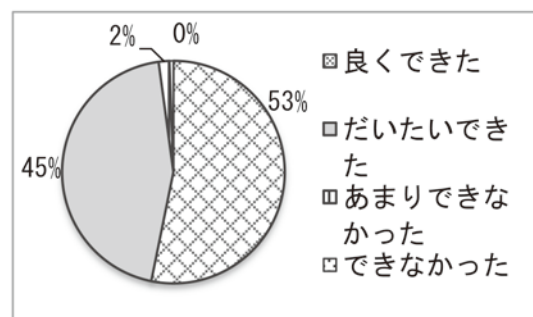
【図5】子どもが好きですか



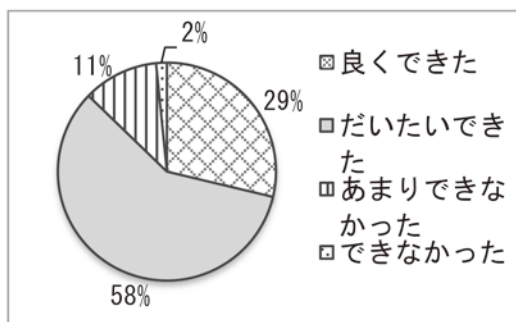
【図6】将来親になりたいですか



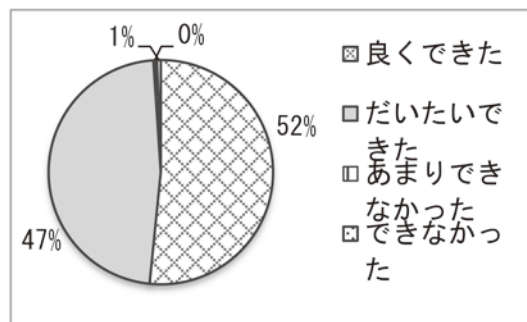
【図7】乳幼児に関心がもてた



【図8】子どもとどのように関わるか考えることができる



【図9】子どもとどのように関わることができた



【図10】乳幼児について理解できた

授業後のアンケートの中での自由記述意見を以下に挙げる。

○保育分野の授業についての意見を書きましょう。

- ・グループで意見を出し合うのが楽しかったし、とても考えさせられた。(大多数の生徒が回答)
- ・グループでの意見を出したり発表したりするのが苦手だったが好きになった。自信がついた。
- ・グループ活動はちょっと苦手です。(一人の生徒が回答)
  
- ・子育てはいろいろ大変だったり考えなくてはならないことがあったりすることが分かった。
- ・子どもについて知っているようで知らないことがたくさんあることが分かった。勉強になった。
- ・子どもが苦手だったけれど、いろいろ勉強して子どもが好きになれた。
- ・子どもに関心がなかったけれど、家庭科の授業のおかげでいろいろ知ることができた。家庭科の授業がなかったら何も知らずに大人になっていたと思う。
- ・自分の将来について考えることができた。親になったら勉強したことを生かしたい。
- ・自分が親になるのは想像できなかったけれど、少し自信がもてた。親になるのも良いと思った。
- ・子育てに前向きになれた。
- ・赤ちゃんと触れ合うようなことをしてみたい。
- ・保育園や幼稚園に行って、幼児や乳児と関わりたい。
  
- ・赤ちゃんを抱っこしたことが良かった。イメージが湧き、親になった気がした。
- ・子どもの遊びの授業が楽しかった。子どもと遊ぶときにすぐ使えるからもっと知りたい。
- ・おやつが楽しかった。熱く話し合った。勉強になった。食べ物の大切さが分かった。
- ・おやつだけでなく、夕食とか欠食が多い朝食とかについてもメニューを考えたい。
- ・衣服の授業が楽しかった。今まで服はデザインしか考えたことが無かったから勉強になった。
- ・子どもの服についてもっと知りたいと思った。
- ・スケジュールを考える授業が一番心に残った。一番楽しかった。みんなですごく頑張った。真剣に考えさせられた。すごく大変だった。発表にも気合いが入った。
- ・スケジュールを考える授業が考えさせられた。1日24時間では足りないと思った。
- ・スケジュールの授業でいろいろな制度を学んだが、もっと詳しく知りたい。
- ・スケジュールの授業で、少子化の理由が実感できた。夫婦の協力は大切だと分かった。
- ・スケジュールを考える授業はもっと時間がほしかった。



## イ イメージマップによる調査

生徒の子どもに対する理解と意識を客観的に把握するために、授業実施前と授業実施後にイメージマップによる生徒の意識調査を行った。ともに10分間で「子ども」という言葉からイメージする単語を思いっただけ挙げさせ、その関連を線で結んで表現させた。授業実施前と授業実施後の結果を比較することにより、生徒の意識の変容を分析した（有効回答者数111名）。

### (7) 単語数による分析結果

授業実施前と授業実施後でイメージされた単語の数による変化は以下の通りである【表3】。授業実施後には90.1%の生徒の単語数が増加した。9.9%の生徒には変化が見られなかった。

【表3】

	平均値	最小値	最多値
実施前の単語数	11.1	1	27
実施後の単語数	18.2	5	42

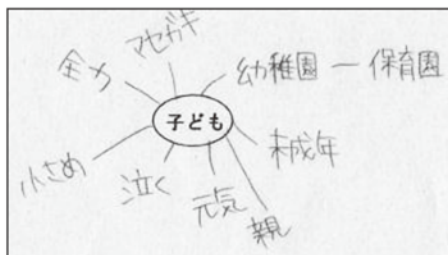
### (イ) イメージされた単語の内容

【生徒A】の「子ども」から連想する単語数は授業実施前では9個、授業実施後では26個に増加した。また、「頭足人」、「喃語」、「延長保育」、「アタッチメント」など少なくとも16個の単語において、あきらかに学習内容によるイメージの広がりが見られた。

【生徒B】では授業実施前では15個、授業実施後では16個とほとんど変わらないが、授業実施後では、「父」→「母」→「協力」、「安全」→「環境」→「服」、「事故」→「病気」→「ワクチン」など、学習内容によるイメージの広がりが見られた。

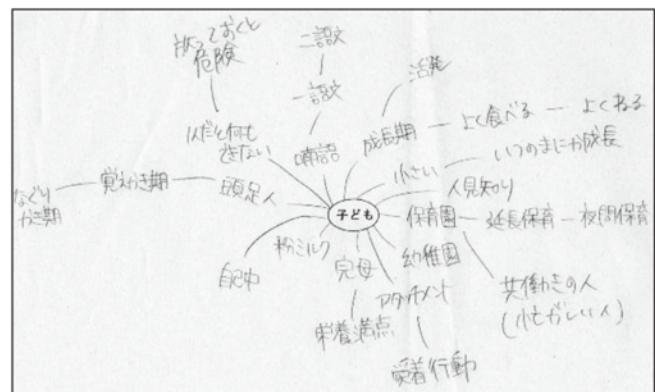
このような変化はこの2人の生徒だけでなく、10個以上の単語を連想できたほとんどの生徒で確認することができた。

【生徒A】 授業実施前

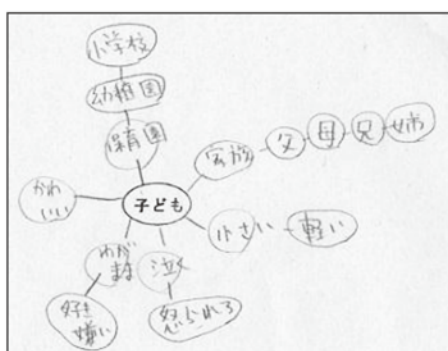


→

授業実施後

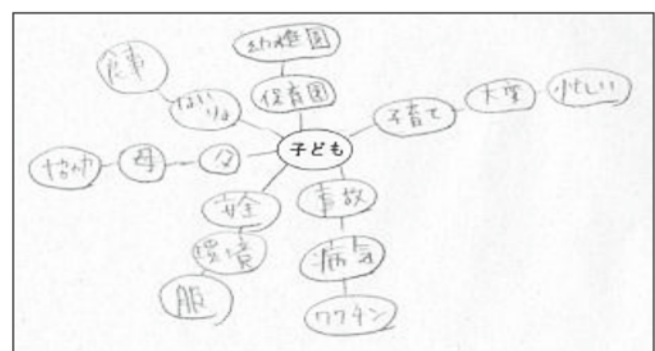


【生徒B】 授業実施前



→

授業実施後



### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、子どものイメージを想起させるような学習教材とその活用法を工夫するとともに、ケーススタディやペアワーク、グループワークなどを用いて生徒自らが考える授業を行い、子どもに対する関心を高めさせるように努めた。子どもを育てる上で起こり得る身近な問題について話し合い、意見や理由をまとめたり、問題の解決方法を探求したりすることによって、学習内容の理解を深め、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと関わろうとする態度を育成することを目指した。

毎時間の取組として、授業内容のまとめや感想を書かせた。その際の工夫として、ワークシートに行罫線を入れ、記入させる時には「5行以上書こう！」などの声掛けを行った。すべての生徒が回を重ねるごとによく書けるようになった。また、まとめの記入欄にあらかじめ教師が意図するキーワードを記入しておくことにより、まとめることの苦手な生徒も考えを整理しながら取り組むことができるようになった。

生徒の授業後アンケートの結果から分かるように、生徒はケーススタディやペアワーク、グループワークなどを行うことで学習に意欲的に取り組み、主体的に考えることができた。これらの活動では、話合いのテーマを明確に設定した。これにより、生徒たちに子育てを自分たちの課題として認識させ、親として子どもとどう関わるか将来像を模索させ、子育てに関する価値観を形成させるのに効果があった。また、今まで子どもに関心がなかった生徒や、子どもについてよく知らないために苦手意識をもっていた生徒に、子どもや子育てに関心や好感、自信をもつようになるなどの肯定的な意識の変容が見られた。さらに、このような学習を繰り返すことによって、生徒の思考の深まりを感じられた。子どもと関わろうとする態度を育成するためには、生徒が主体的に考え、判断し、まとめていく十分な時間を確保するとともに授業内容を精選する必要がある。今回、この単元を計画する段階で、ロールプレイの導入も検討したが、ロールプレイを効果的に行うためのウォーミングアップの時間や台詞の作成時間などを十分に取れないこと、また、生徒の羞恥心が先行し、効果的な活動ができないのではないかとの危惧から取り入れなかった。そこで、ケーススタディを行う際、「相手の心理や立場を考える」というロールプレイの要素を取り入れてみたところ生徒に対する学習効果が高まった。ケーススタディは、本事例の6時間目（ペアワーク「子どもの偏食、夜更かし」、12時間目（個人での取り組み「頭痛で休園」）、13時間目（グループワーク「危険な行動・事故」）のように、話合いの形態や活動時間を自由に設定できる利点もあった。

14・15時間目の「子育てシミュレーション」は今回の実践において、生徒の意欲の高まりや学習内容の理解の深まりを最も実感した授業であり、生徒の反響も大きかった。来年度以降も継続しようと考えている。

#### (2) 課題

今回の実践では、ケーススタディやグループワークなどにおける話合いを通して、それぞれの意見やその理由をまとめたり、問題の解決方法を探求したりする活動の後、さらに自分のワークシートにまとめる活動を行った。このような活動を通して、生徒のもつ言語に関する能力の差を改めて感じた。よく考え判断しているにもかかわらず、話合い活動では積極的に意見を述べられるがワークシートに書くことが苦手な生徒と、逆に話合い活動には消極的であるがワークシートの記入では十分活動の効果が見られる生徒がいた。発表のみ、ワークシートのみでの評価であると偏った評価になる恐れがある。さらにワークシートの記述内容は評価材料として扱いやすいが、グループワークでの話合い活動の評価に関しては、教師一人ですどのように行えばよいのかという点に

ついて難しさを感じた。生徒の相互評価を利用したり、話合いの過程も教師が把握できるように工夫したりするなど、評価方法の研究も必要である。